

景気動向調査

全産業 DI 値、マイナス幅が縮小も原材料高騰で先行に不安

令和4年4～6月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和4年4～6月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率は62.0%でした。

【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲26.3で前回(2022年1月～3月)より11.8ポイント改善。卸売業前回▲37.5ポイントから今回▲20.0ポイント、またサービス業▲10.3ポイント、小売業▲34.8ポイントとマイナス幅が縮小しました。

全産業売上高の推移：前回▲37.5ポイント(2022年1月～3月)から20.1ポイント改善しました。

製造業33.3ポイント改善、その他産業においても改善傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲17.8ポイント(2022年1月～3月)から1.8ポイント改善しました。

建設業8.5ポイント悪化、その他産業は改善傾向を示しました。

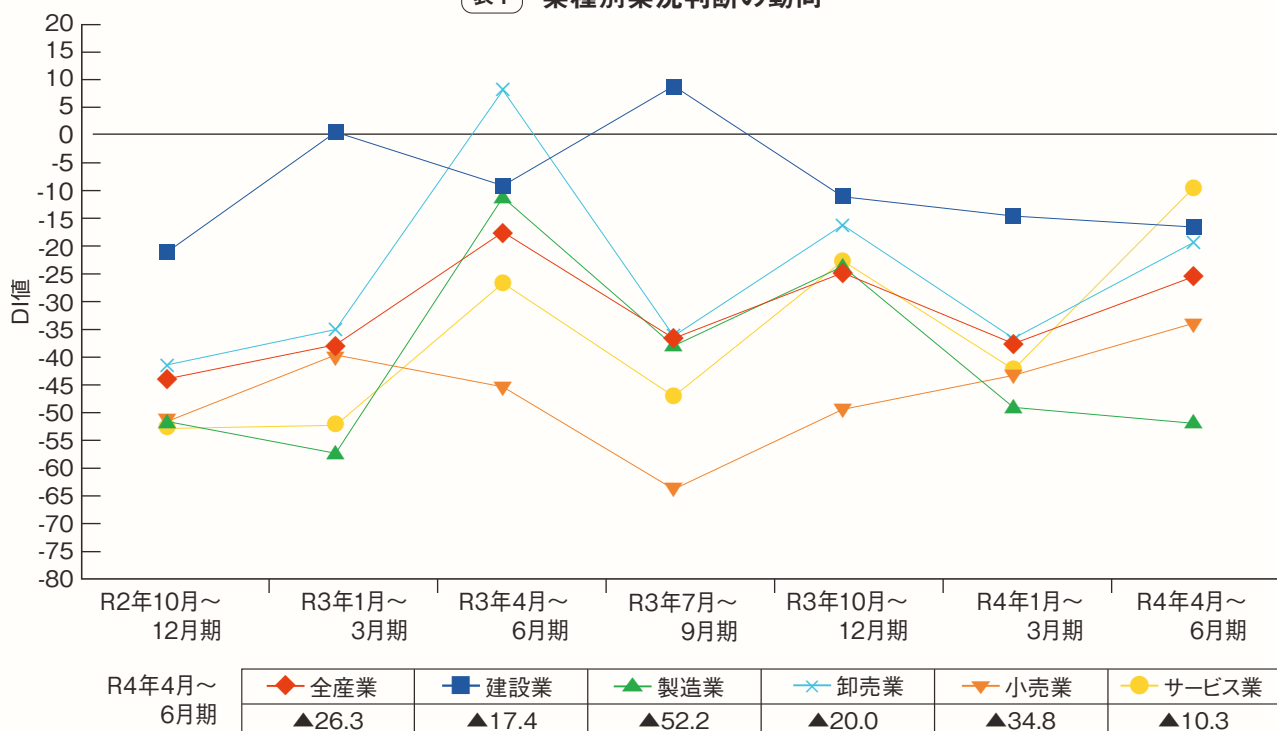
全産業採算の動向：前回▲41.5ポイント(2022年1月～3月)から2.8ポイント改善しました。

サービス業前回▲34.3から今回▲13.8ポイントとマイナス幅が縮小しました。

全産業雇用人員の動向：前回▲11.5ポイント(2022年1月～3月)から8.9ポイント改善しました。

製造業を除く産業で人手不足感が弱まりました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL: 054-641-2000